

8月21日 木曜日

2014年(平成26年)

室蘭民報社

(代) 0143-22-5121

☎ 0143-24-1337

F 051-0015

室蘭市本町1-3-16

© 室蘭民報社2014

# 室蘭民報

## MUROMIN

夕刊

### 「心の強さを感じた」

#### 釜石で傾聴ボランティア

#### 室蘭・海星学院高校生 市長に報告

東日本大震災被災地の岩手県釜石市でボランティア活動をした、室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、210人)の生徒6人が20日、青山剛市長に活動報告した。「傾聴ボランティアをしてすごく喜ばれた」「東北の人の心の強さを感じた」など現地で感じたことを語った。

同校は室蘭ユネスコ協会(立野了子会長)ユネスコスクールの活動の一環で、1、2年生6人を派遣。7月8〜12日の5日間で日カリタスジャパン釜石ベースを拠点に、仮設住宅やコミユニティーカフェなどで、高齢者に対する傾聴や本の代読などに取り組んだ。滞在中に地震に遭い、高台に

避難する経験もした。

2年生の奈良岡圭吾君ら生徒たちはそれぞれ、傾聴

ボランティアなどのエピソードを語った。「元気に振る舞いながらも、1人になると震災を思い出して寂しさや悲しさが募るといった話を聞き、涙が出た」などと述べた。震災を風化させないために製作し、道南バス車内に掲示されたポスターも披露した。



東日本大震災被災地の岩手県釜石市でのボランティア活動を青山市長に報告する室蘭・海星学院高校の生徒たち

青山市長は公務の一環で10日に現地を視察、生徒のボランティアの様子も見た。「言葉の一つ一つが心に響く。現地で見たことや経験したことを周囲に伝え、被災地への理解を浸透させてほしい」と述べた。生徒たちは20日に全校生徒に向けた報告会を行う。(成田真梨子)